

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2014年6月27日から2024年6月26日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド (クラスX2) 世界各国の株式や債券 マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品

当ファンドの運用方法	■主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産への分散投資により信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■実質的な運用は、マルチアセット運用に精通したブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シーが行います。 ■米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
------------	---

組入制限	■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
------	--------------------------

分配方針	■年1回(原則として毎年6月26日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
------	---

ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。(基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)

【運用報告書(全体版)】

(2020年6月27日から2021年6月28日まで)

第 7 期

決算日 2021年6月28日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
3期(2017年6月26日)	11,518	0	21.6	0.0	95.8	111,148
4期(2018年6月26日)	11,651	0	1.2	0.0	97.1	102,093
5期(2019年6月26日)	11,633	0	△ 0.2	0.0	95.9	94,752
6期(2020年6月26日)	12,163	0	4.6	0.0	96.1	74,407
7期(2021年6月28日)	15,909	0	30.8	0.0	95.8	57,739

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率	投資信託証券組入比率
		騰落率		
(期首)	円	%	%	%
2020年6月26日	12,163	—	0.0	96.1
6月末	12,174	0.1	0.0	96.6
7月末	12,508	2.8	0.0	97.5
8月末	13,166	8.2	0.0	96.0
9月末	12,949	6.5	0.0	97.0
10月末	12,656	4.1	0.0	98.1
11月末	13,702	12.7	0.0	97.6
12月末	14,016	15.2	0.0	95.6
2021年1月末	14,268	17.3	0.0	96.6
2月末	14,798	21.7	0.0	97.4
3月末	15,187	24.9	0.0	95.3
4月末	15,592	28.2	0.0	97.9
5月末	15,779	29.7	0.0	97.1
(期末)				
2021年6月28日	15,909	30.8	0.0	95.8

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2020年6月27日から2021年6月28日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	12,163円
期末	15,909円 (分配金0円(税引前)込み)
騰落率	+30.8% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因（2020年6月27日から2021年6月28日まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産へ分散投資を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。
 なお、運用指図に関する権限の一部をブラックロック・ジャパン株式会社に委託しています。

上昇要因

- 主要国によるかつてない規模の金融・財政政策や、新型コロナウイルスワクチンの普及、経済活動回復期待などを背景に、株式などのリスク資産が大幅に上昇したこと
- 期を通してみれば、米ドル高・円安が進行したこと

組入れファンドの状況

組入れファンド	投資資産	期末組入比率
ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)	世界の株式、債券	95.8%
マネー・マーケット・マザーファンド	短期金融資産	0.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

投資環境について（2020年6月27日から2021年6月28日まで）

世界の株式市場は大きく上昇し、債券市場も小幅に上昇しました。為替市場では米ドルが円に対して上昇しました。

株式市場

世界の株式市場は、主要国によるかつてない規模の金融・財政政策や、新型コロナウイルスの感染拡大鈍化、ワクチン接種の進展、経済活動の再開などを背景に、期を通して上昇基調が継続しました。ただし、9-10月には、リスク資産の割安感が後退し、米国の大統領選挙を控える中で、イベント前に幅広いリスク資産が調整する局面が見られました。また、2-3月も、米国金利が急上昇したことからテクノロジー銘柄を中心に株式が下落する局面が見られました。期を通してみると、調整する局面がありましたが、今後の経済回復への楽観的な見通しから、大きく上昇しました。

当期の株式市場の動きをMSCIオールカントリー・ワールドインデックス(配当込み、米ドルベース)で見ると、期首に比べて40.0%上昇しました。

債券市場

世界の債券市場は、新型コロナウイルスワクチン開発の進展、普及が進み、経済活動が再開する中、景気拡大に対する期待が大きく

強まり、先進国を中心に国債利回りが上昇（価格は下落）しました。特に米国では2021年に入り、民主党が大統領と上院・下院の過半数を占める「トリプルブルー」が実現し、大規模な財政出動で米国債が増発されるとの懸念などが米金利上昇に拍車をかけました。

一方で社債や新興国債券、証券化商品市場については、先進国中銀の買い入れ策にサポートされたことや、相対的にスプレッド(国債に対する上乗せ金利)が高く、インカム資産としての魅力が高いことを背景に投資家資金が流入したことからスプレッドが縮小し、上昇しました。

当期の債券市場の動きをブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合インデックス(米ドルベース)で見ると、期首に比べて2.6%上昇しました。

為替市場

期初から2020年末まで、FRB(米連邦準備制度理事会)による大規模な金融緩和政策を受けて、為替市場では米ドルが主要通貨全般に対して軟調となり、米ドル安・円高が進行しました。2021年に入ると、景気回復期待とそれに伴うインフレ率の上昇を織り込

んで米国の長期金利が大幅に上昇し、米ドル高・円安が進行しました。その結果、期を通してみれば米ドル高・円安が進行しました。

当期の米ドル・円は期首の107円12銭から期末110円69銭と3円57銭の米ドル高・円安となりました。

ポートフォリオについて（2020年6月27日から2021年6月28日まで）

当ファンド

「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)」の組入れを高位に保ちました。

ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)

市場環境の変化に対して事前予防的に対応するとの方針の下、株式、債券、現金などの各資産クラスの配分を機動的に変更しました。

株式については、FRBによる緩和的な金融政策や、追加的財政刺激策、ワクチン接種の進展による2021年の経済成長の加速予想が株式市場へのサポート材料となることから米国株式のウエイトを引き上げました。また、中国株式についても選別的に投資を行いました。欧州株式については、追加の金融政策や協調的な財政政策が支援材料となるほか、米国と比べ、景気の上振れに伴う循環物色の影響を大きく受けることを鑑み、2020年夏場以降、選別的に積み増しました。また、日本株式および、コモディティ（商品）への依存度の高いオーストラリアやカナダなどの株式については、引き続き弱気見通しを維持しま

した。

債券については、株式のボラティリティ（価格変動性）上昇に対する効果的なヘッジとしての国債の有効性は低下していると考え、米国債のウエイトを削減しました。一方、米国外の先進国国債についても同様に慎重なポジションを維持しつつ、選別的な投資を実施しました。国債以外では、分散投資効果や利回り追求の観点から、幅広いセクターや償還年限の中から信用リスクが低水準であると考えられる優良発行体を中心とする社債や、中国国債などの新興国国債、証券化商品への配分を拡大しました。

国債の配分を削減したことを踏まえ、ボラティリティが上昇する市場環境においては、株式リスクに対してより分散効果が高い資産を組み入れることが重要であると考え、金を組み入れましたが、当期後半にかけて、リスク資産との相関が高まり、ヘッジとしての有効性が低下したと考え、保有を引き下げました。同様にリスク管理の一環として現金の比率を増やし、機動的に変更しました。

●株式

株式の組入れは、期初の62%程度から、株式市場の堅調な推移を想定して引き上げ、

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

期末時点では68%程度としました。

●債券

債券の組入れは、期初の22%程度から、配分を引き下げ、期末には16%程度としました。

●現金等

10~16%程度の範囲で、市場環境を見極めつつ、機動的に配分を変更しました。ボラ

ティリティの高い市場展開が続く中、リスク管理の観点および、機動的に投資機会を獲得する資金源として高めの比率で保有しました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2020年6月27日から2021年6月28日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2020年6月27日から2021年6月28日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第7期
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(—%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	5,909

当期の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)」の組入れを高位に保ちます。

ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)

大規模なワクチン供給に加え、主要国の緩和的な金融政策、財政政策が見込まれています。景気刺激策に加え、低水準の消費者債務、高い貯蓄率、（製造段階と小売り段階両方での）在庫の歴史的な低水準、企業の生産性の向上が加わり、年間を通じた非常に力強い経済成長と企業利益の増加に向けて舞台が整いつつあり、株式への強気な姿勢を維持します。

株式については、セクター・レベルでのポジショニングはバーベルアプローチを反映しており、景気回復の恩恵を受ける景気敏感企業と、テクノロジー導入の進展に関連する長期トレンドの恩恵を受けて構造的に成長が見

込める企業の両輪を保有します。

債券については、力強い景気回復に対する見通しにそって、先進国の国債を引き続き慎重にみています。主に米国のハイ・イールド債を中心とする社債の組入れを維持し、選別した新興国市場のソブリン債（政府や政府機関、国際機関などが発行する債券）への投資を通じて追加的な利回りを獲得します。中でも中国の国債や、スプレッドが縮小する可能性があるラテンアメリカ諸国に重点を置きません。

現在の投資環境においては、国債や金など伝統的なヘッジ手段の有効性が低下していることから、現金とデリバティブ（金融派生商品）への依存度を高め、多様なポートフォリオ・ヘッジを選択して、リスク資産とのバランスを取ることを目指します。

マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建て短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

1万口当たりの費用明細（2020年6月27日から2021年6月28日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	289円	2.079%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は13,899円です。
（投信会社）	(161)	(1.161)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(123)	(0.885)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(5)	(0.033)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(-)	(-)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（投資信託証券）	(-)	(-)	
（先物・オプション）	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（株式）	(-)	(-)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（公社債）	(-)	(-)	
（投資信託証券）	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.006	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.000)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	290	2.085	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

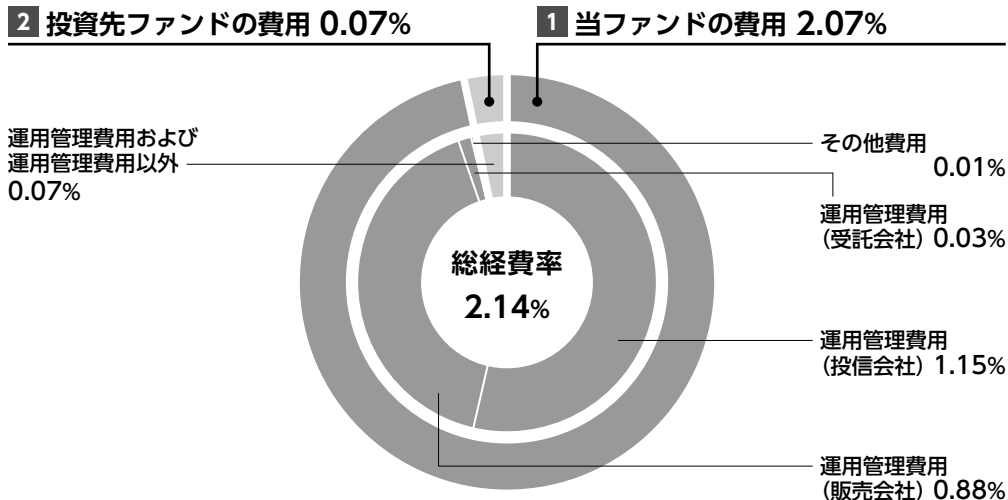
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率 (1 + 2)	2.14%
1 当ファンドの費用の比率	2.07%
2 投資先ファンドの費用の比率	0.07%

※ **1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ **2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンド、マネーファンドを除く))の運用管理費用は、当ファンドの運用委託報酬として負担していることから、原則として、開示すべき運用管理費用はありません。ただし、投資先ファンドには運用管理費用以外の費用(概算)がかかります。

※ **1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.14%です。

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

■ 当期中の売買及び取引の状況（2020年6月27日から2021年6月28日まで）

投資信託証券

			買 付		売 付	
			口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
外 国	ア メ リ カ	ブラックロック・グローバル・ファンズー グローバル・アロケーション・ファンド (クラスX2)	58,888	5,575	3,854,045	332,099
		小 計	58,888	5,575	3,854,045	332,099

※金額は受渡し代金。

■ 利害関係人との取引状況等（2020年6月27日から2021年6月28日まで）

利害関係人との取引状況

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

マネー・マーケット・マザーファンド

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
			%			%
公 社 債	百万円 58	百万円 15	25.9	-	-	-

※平均保有割合 18.5%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 （2020年6月27日から2021年6月28日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2021年6月28日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた外貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)		期 末		組入比率
	口 数	口 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千米ドル	千円	%
ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド (クラスX2)	8,902,743	5,107,586	499,777	55,320,357	95.8
合 計	8,902,743	5,107,586	499,777	55,320,357	95.8

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2) 親投資信託残高

種 類	期首(前期末)		期 末	
	口 数	口 数	口 数	評 価 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口	千口	千口	千円
	14,208	14,208	14,208	14,207

※マネー・マーケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は76,752千口です。

■ 投資信託財産の構成

(2021年6月28日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 証 券	千円	%
マネー・マーケット・マザーファンド	55,320,357	94.3
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	14,207	0.0
	3,352,635	5.7
投 資 信 託 財 産 総 額	58,687,199	100.0

※期末における外貨建資産(56,027,012千円)の投資信託財産総額(58,687,199千円)に対する比率は95.5%です。

※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1米ドル=110.69円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

（2021年6月28日現在）

項 目	期 末
(A) 資 産	58,687,199,613円
コール・ローン等	3,352,634,311
投資証券(評価額)	55,320,357,988
マネー・マーケット・マザーファンド(評価額)	14,207,314
(B) 負 債	947,471,004
未払解約金	335,470,769
未払信託報酬	610,342,732
未払利息	7,503
その他未払費用	1,650,000
(C) 純資産総額(A-B)	57,739,728,609
元 本	36,293,226,853
次期繰越損益金	21,446,501,756
(D) 受益権総口数	36,293,226,853口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,909円

※当期における期首元本額61,174,122,313円、期中追加設定元本額1,095,235,540円、期中一部解約元本額25,976,131,000円です。
 ※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。
 ※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税引前)	当 期
	－円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■ 損益の状況

（自2020年6月27日 至2021年6月28日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 1,028,833円
受 取 利 息	67,798
支 払 利 息	△ 1,096,631
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	14,694,136,642
売 買 損 益	18,600,688,739
売 買 損 益	△ 3,906,552,097
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,311,027,666
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	13,382,080,143
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	3,020,768,835
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	5,043,652,778
(配 当 等 相 当 額)	(3,152,899,787)
(売 買 損 益 相 当 額)	(1,890,752,991)
(G) 計 (D+E+F)	21,446,501,756
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	21,446,501,756
追 加 信 託 差 損 益 金	5,043,652,778
(配 当 等 相 当 額)	(3,152,899,878)
(売 買 損 益 相 当 額)	(1,890,752,900)
分 配 準 備 積 立 金	16,403,784,939
繰 越 損 益 金	△ 935,961

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 ※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 ※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 ※投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託報酬の中から支弁している額は504,718,886円です。
 ※期末における、費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(13,383,016,104円)、信託約款に規定される収益調整金(5,042,716,817円)および分配準備積立金(3,020,768,835円)より分配可能額は21,446,501,756円(1万口当たり5,909円)ですが、分配は行っておりません。

■ 組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）
形態	ルクセンブルグ籍外国投資法人（米ドル建て）
主要投資対象	世界各国の株式や債券など
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・トータル・リターンを最大化することを目指します。 ・ファンドは、世界の株式、債券および短期証券に特に制限なく投資します。通常の市況では、純資産の70%以上を国や企業が発行する有価証券に投資します。 ・ファンドは、割安と判断される有価証券へ投資します。ファンドは、小規模企業および新興国の成長企業の株式に、また債券の投資部分においてはハイ・イールド債券にも投資することができます。 ・通貨エクスポージャーについては柔軟に運用します。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・有価証券の空売りは行いません。 ・純資産総額の10%を超える借入れは行いません。
決算日	年1回決算（8月31日）
分配方針	原則として分配を行いません。
運用管理費用	<p>運用報酬はありません。</p> <p>※管理および保管に要する費用などがかかりますが、これらはファンドの運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。</p>
その他の費用	<p>ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
スイング・プライス	ファンドの買付け、売却がポートフォリオに重要な影響を与えると考えられる場合、予想される取引スプレッド、コスト、その他の要因を考慮して、その売買価格が調整されることがあります。
投資顧問会社	ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シー
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋・要約して翻訳したものを記載しています。

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）

■ 損益及び純資産変動計算書（2019年9月1日から2020年8月31日まで）

	(単位：米ドル)
期首純資産	14,264,886,849
収益	
銀行利息	384,857
債券利息、源泉税控除後	87,689,655
スワップ利息	7,683,972
差金決済取引利息	204,520
集団投資スキーム収益、源泉税控除後	2,950,635
配当金、源泉税控除後	116,427,472
差金決済取引配当、源泉税控除後	422,726
有価証券貸付収益	2,618,374
管理報酬リベート	219,489
収益合計	<u>218,601,700</u>
費用	
スワップ利息	4,458,284
差金決済取引配当、源泉税控除後	826,245
年間サービス料	24,155,413
保管および預託報酬	2,245,838
販売報酬	12,399,119
税金	5,513,183
管理報酬	156,285,107
費用合計	<u>205,883,189</u>
純利益	12,718,511
以下に係る実現純評価益／（損）：	
投資有価証券	540,057,767
差金決済取引	(3,635,965)
上場先物取引	80,791,799
オプション／スワップション契約	129,790,629
スワップ取引	(15,001,971)
為替先渡取引	12,332,106
その他の取引に係る外国通貨	(8,294,626)
当期実現純評価益	<u>736,039,739</u>
以下に係る未実現評価益／（損）の純変動額：	
投資有価証券	1,379,607,967
差金決済取引	1,761,102
上場先物取引	(22,748,628)
オプション／スワップション契約	70,180,770
スワップ取引	4,991,455
為替先渡取引	66,036,903
その他の取引に係る外国通貨	1,067,986
当期末実現評価益の純変動	<u>1,500,897,555</u>
運用による純資産の増加	<u>2,249,655,805</u>
資本の変動	
投資証券発行による正味受取額	2,213,355,201
投資証券買戻しによる正味支払額	(4,351,743,835)
資本の変動による純資産の減少	<u>(2,138,388,634)</u>
配当金宣言額	(11,370,868)
期末純資産	<u>14,364,783,152</u>

■ ■ 組入上位10銘柄(基準日：2020年8月31)

組入銘柄	組入比率
SPDR GOLD SHARES	2.4%
MICROSOFT CORP	2.2%
AMAZON COM INC	2.2%
WI TREASURY (CPI) NOTE 0.125 04/15/2025	2.1%
APPLE INC	2.1%
TREASURY NOTE 1.75 11/15/2029	1.9%
ALPHABET INC CLASS C	1.5%
ISHARES \$ HIGH YIELD CRP BND ETF \$	1.3%
TREASURY (CPI) NOTE 0.125 10/15/2024	1.3%
CHINA PEOPLES REPUBLIC OF (GOVERN 3.29 05/23/2029	1.2%

※比率は純資産総額に対する割合

マネー・マーケット・マザーファンド

第10期 (2020年3月3日から2021年3月1日まで)

信託期間	無期限 (設定日: 2011年5月31日)
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債券組入比率	純資産総額
	円	期中騰落率 %		
6期 (2017年3月1日)	10,033	△0.1	66.0	137
7期 (2018年3月1日)	10,025	△0.1	76.9	90
8期 (2019年3月1日)	10,019	△0.1	74.1	89
9期 (2020年3月2日)	10,013	△0.1	80.6	77
10期 (2021年3月1日)	10,002	△0.1	75.9	76

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

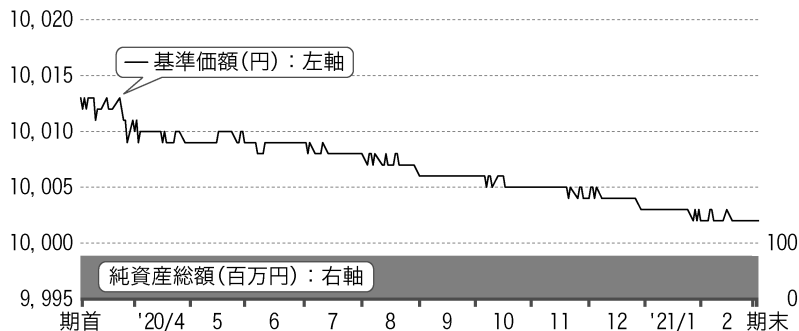
年月日	基準価額		債券組入率比
	円	騰落率 %	
(期首) 2020年3月2日	10,013	-	80.6
3月末	10,010	△0.0	77.0
4月末	10,009	△0.0	76.9
5月末	10,009	△0.0	74.4
6月末	10,009	△0.0	74.4
7月末	10,008	△0.0	74.3
8月末	10,006	△0.1	75.7
9月末	10,006	△0.1	75.7
10月末	10,005	△0.1	75.6
11月末	10,004	△0.1	75.5
12月末	10,003	△0.1	75.7
2021年1月末	10,002	△0.1	75.6
2月末	10,002	△0.1	75.9
(期末) 2021年3月1日	10,002	△0.1	75.9

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2020年3月3日から2021年3月1日まで)

基準価額等の推移



期首	10,013円
期末	10,002円
騰落率	-0.1%

▶ 基準価額の変動要因 (2020年3月3日から2021年3月1日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

下落要因

・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

▶ 投資環境について (2020年3月3日から2021年3月1日まで)

当期の短期金利は上昇しました。

新型コロナウイルスの感染拡大により景気が大きく落ち込んだことや、物価上昇率の伸びが下落に転じたことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初から世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大し、リス

ク回避の動きが強まったことから、安全資産としての短期国債への運用ニーズの強まりを背景に3月下旬に利回りは一時-0.4%台まで低下しました。その後、過度な国債需給の引き締めに対し、日銀が保有国債の売り現先（買い戻し条件付き売却）を断続的に実施したことから徐々に需給が緩和し、利回りは上昇に転じました。また、政府による大規模経済対策が策定され、5月から短期国債が大幅に増発されたことから利回りは上昇基調をたどりました。しかし、日銀が短期国債買入額を増額したことから利回り上昇は一服し、その後は-0.10%を挟んで概ねレンジ内での推移となりました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは期首-0.199%に対し、期末は-0.110%へ上昇しました。

▶ ポートフォリオについて(2020年3月3日から2021年3月1日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ ベンチマークとの差異について(2020年3月3日から2021年3月1日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

② 今後の運用方針

2%の物価安定目標の達成が展望出来ない中、日銀によるマイナス金利政策が継続される見込みです。短期国債利回りやコールローン（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナス圏での推移を想定します。

残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細(2020年3月3日から2021年3月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.007% (0.007)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.007	

期中の平均基準価額は10,006円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2020年3月3日から2021年3月1日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内	特 殊 債 券	千円 58,705	千円 — (62,000)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※()内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等(2020年3月3日から2021年3月1日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2020年3月3日から2021年3月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2021年3月1日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	58,000 (58,000)	58,278 (58,278)	75.9 (75.9)	— (—)	— (—)	— (—)	75.9 (75.9)
合 計	58,000 (58,000)	58,278 (58,278)	75.9 (75.9)	— (—)	— (—)	— (—)	75.9 (75.9)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※一印は組入れなし。

B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種 類	銘 柄	期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
		%	千円	千円	
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	第133回 政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.3	14,000	14,030	2021/4/30
	第135回 政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.1	15,000	15,041	2021/5/31
	第142回 政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.0	15,000	15,076	2021/8/31
	第152回 政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.1	14,000	14,129	2021/12/28
	合 計	—	58,000	58,278	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 投資信託財産の構成

(2021年3月1日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	58,278	75.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	18,881	24.5
投 資 信 託 財 産 総 額	77,159	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2021年3月1日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	77,159,018円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	18,809,548
公 社 債 (評 価 額)	58,278,230
未 収 利 息	71,240
(B) 負 債	389,247
未 払 解 約 金	389,196
未 払 利 息	51
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	76,769,771
元 本	76,752,334
次 期 繰 越 損 益 金	17,437
(D) 受 益 権 総 口 数	76,752,334口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	10,002円

※当期における期首元本額77,141,454円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額389,120円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

インド内需関連株式ファンド	119,759円
高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/3カ月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/3カ月決算型)	1,456,790円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(原定為替ヘッジ)	1,237,272円
三井住友・ニュー・アジア・ファンド	369,177円
アジア好利回りリート・ファンド(年1回決算型)	997円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし/年2回決算型)	1,187,376円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(原定為替ヘッジ/年2回決算型)	389,132円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド(為替ヘッジあり)	289,352円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド(為替ヘッジなし)	419,066円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローイング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド(年1回決算型)	7,882,655円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2020年3月3日 至2021年3月1日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	641,537円
受 取 利 息	656,090
支 払 利 息	△ 14,553
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△716,530
売	△716,530
買	
(C) 信 託 報 酬 等	△ 5,051
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 80,044
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	97,557
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 76
(G) 計 (D + E + F)	17,437
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	17,437

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。